

第 1 回
小湊小・中学校の跡地活用を中心とした
地域の活性化を考える 100 人会議
(略称：100 人会議)

会議結果

○開催日 平成 30 年 3 月 17 日 (土)

○場 所 鴨川市立小湊小学校

○参加者

参 加 者	出席者数
市民 (無作為抽出した方と H29 年度事業仕分けの市民判定人)	23 人
大学生・高校生	9 人
小湊地区の関係団体等	16 人

○コーディネーター

氏 名	所 属 等
伊藤 伸	構想日本 総括ディレクター
石渡 秀朗	構想日本 特別研究員
石井 聡	神奈川県逗子市経営企画部参事 (秘書・広報広聴担当)
山根 晃	足立区政策経営部子どもの貧困対策担当課長

○分科会議事概要

第 1 分科会	テーマ：日蓮上人ゆかりの地域資源をどう位置付けるか.....	1
第 2 分科会	テーマ：海と山の優れた自然をどう生かすか (漁業のこれから)	7
第 3 分科会	テーマ：観光地としての生き残り策 (小湊鐵道との連携など)	9
第 4 分科会	テーマ：少子高齢化に対応した地域をどう作るか.....	12

○アンケート結果等

第 1 回 100 人会議記入シート集計一覧.....	15
100 人会議参加者アンケート集計表.....	18

(鴨川市) 住民協議会「第1回100人会議(第1分科会)」議事メモ

分科会	第1分科会 (日蓮上人ゆかりの地域資源をどう位置付けるか)
コーディネーター	伊藤 伸
ナビゲーター	
説明担当者(自治体)	企画政策課長 平川 潔、企画政策課 秋元 真彦
日時	2018年3月17日(土) 15時35分から17時05分
場所	屋内運動場
その他	参加者数 12名 欠席者数 1名 *欠席予定者の参加1名

趣旨・概要

○自己紹介+小湊地域・日蓮上人に関するコメント等

総括

分科会 会長総括

- 様々な意見を聞いたことで勉強になった。
- これからも小湊地域の発展のために頑張っていきましょう。

コーディネーター総括

- 様々な話を聞く中で、自身も非常に勉強になった。
- 次回もよろしくお願ひしたい。

協議の流れ

- ・伊藤自己紹介
- ・委員自己紹介
- ・事務局自己紹介

協議しているテーマ① 発表者決め

- コ) 今回の主眼は、最初の1200人の抽出者である。
⇒出席者の中で唯一の対象者を発表者に決定。

○印象記入シート記入についての説明

協議しているテーマ② 日蓮上人ゆかりの地とはどのようなものがあるか

- 市) 簡単に日蓮上人関係(年表等)の説明。
- 委) 「どう位置付けるか」とは。
鴨川シーワールドはどのような位置づけか。
- 市) 観光資源になる。
- コ) 冒頭の全体会でも説明したが、小中学校跡地を観光資源として考えるか、地域資源として考えるか、活用の方向性は現時点では決めていない。
- 委) 地域資源を観光のものとして位置付けるのか、それとも公共のものとして位置付けるということもあり得るのか。
- コ) お寺や歴史個々をということではなく、この小湊地域全体としてどのような位置付けにするかということであり、最終的にはどのような結論になっても良いということで100人会議が設置されている。

委) : 委員、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

協議しているテーマ③

事前のアンケートで「小湊から連想するキーワード」を聞いたが、日蓮上人や誕生寺が圧倒的に多かった。これらは、皆さんにとってどのような位置づけか。既にあるものなのか、祀られているものなのか。どのようなイメージか。

- 委) 当たり前のもの。
自分が旅行に行った際に立派なお寺があったとしても、歴史がわからないと面白くない。
地元においても諸々を知らない人もいる。
歴史を知れば興味が出てくる人もいるのでは。
- コ) 好きだから詳しいのか？
- 委) 生まれたころからあるから詳しいが、小湊地区に住んでいても、そうでない方もいる。
- コ) 話を聞く機会というのがあったのか。
- 委) 自分はお寺の住職から話を聞いた。
-
- 委) 日蓮上人生誕 800 年祭の際には参拝客（≒観光客）として日蓮宗の方が全国から数多く来ると思われる。
日蓮宗から見た日蓮上人の位置付けの話になってしまうが、誕生寺・清澄寺は産まれたときに修行をしていたお寺であり、日蓮宗の総本山は身延山である。
それを勘案すると、人が多く来訪するのは総本山のほうではないか。
- 委) 今の誕生寺は皆で盛り上げて作ったものと聞いている。
日蓮上人が作ったのは妙蓮寺。
- コ) 委員（高校生）は小湊生まれだが、これまでのような話（歴史事実等）は聞いたことがあるか？
- 委) あまり聞いておらず、知識も小学校の総合学習の時間に勉強した。
- コ) 昔と今で、学校での日蓮上人を扱う頻度は違うか？
- 委) 学校では一度も習ったことはない（30代）
- 委) 中学校のクラブのようなものの共同研究で勉強した程度。
- 委) 鯛の浦の資料館に遊びに行ったときに学んだ。
- コ) 歴史的背景がわからないとなかなか食いつきがよくないというのは自身も実感している。今までの話を聞くと学校では歴史的背景を知る時間を設けていないように感じる。
- 委) 宗教的なことではなく、日蓮上人自体のことを学んでもらえる、広めていく努力が必要。
- 委) 現在の学校の教育方針として、子供たちが自分でテーマを見つけ、それについて考えるというのが主流であるが、学校がテーマ設定をする必要があるのでは。
- コ) PTA の集まりの中などで日蓮上人の話がでることがあるか。
- 委) ない。
習ったかについても覚えていない。
- 委) 天津小湊地区は日蓮宗の方が多い。
-
- 委) 「しょうにん」の字は「上人」ではなく「聖人」が正しいのか。
- 委) 間違っているわけではないが、信仰上は「聖人」である。
国家的に認められているのは「上人」ではあるが、経文に出てくる人として「聖人」として崇めている。

委) : 委員、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

- コ) 小湊地区の方でも日蓮上人のことを知らない人が多くいるとの話が出たがどうか。
- 委) お寺によく来る方はよく知っているであろうと思う。
- コ) 世代による違いは感じるか。
- 委) 高齢の女性方はよく知っている。
江見小学校・長狭小学校の生徒が誕生寺に校外学習に来る。
- コ) 進学（大学）によって鴨川に来た2人は全く分からないことが多いだろうが、今までの流れの中で少し知っていることはあったか？
- 委) 全く知らなかった。
- 委) 単語レベルで知っているものが少しある。
-
- コ) 小湊地区に居住している方からすると、日蓮上人ゆかりの資源は観光資源としての位置付けとを感じるか、地域資源として感じる人が多いか。
- 委) 2分される。
お寺は観光地。地域資源としては、大弁天・小弁天や海中に真水が沸いている井戸。
- 委) 誕生寺ではその地点を特定しようとする動きがある。
- 委) 今まで議論の中で出た話は、日蓮上人誕生に由来した話。
- コ) そういった歴史事実を伝える場所はあるのか。
- 委) 誕生寺や観光協会でも行っている。
- コ) 市役所では何かあるか。
- 市) パンフレットを作成している。
その他にもガイド協会という組織もある。
- コ) 江見地区から見る誕生寺やその他の場所をどの様に捉えているか。
観光に行く場所か。
- 委) 初詣に行く場所であり観光地である。
大人になって歴史的な分野に興味を湧いてきたが、子供たちは事実のみを話しただけでは興味を示さない。
生活の中で知識を得る機会が昔はあったが、今の子供たちは対象エリアに住んでいる住んでいないに関わらず、「勉強させられる」という事柄に興味を示さないのでは。
- コ) 子供たちに学ぶ意欲を育ませるにはどうすればよいと思うか。
- 委) 話す人が興味を持たせるよう話をしてくれれば。
- 委) 産まれに関する逸話について話せる人がいるとは思いますが、途中経過で何をした人かを話せる人がいないのでは。
- 委) 社会的な歴史の範疇で話をする人がいると思うが。
- コ) 学校の授業でやるべきものなのか、学校の授業以外でやるべきものなのか。
- 委) 学校の授業は政教分離の側面もあり限界があると思われる。
- 委) 過去、日蓮上人を題材とした大河ドラマの話があったが、「宗教に関連する話」という点と「華がない」ということで立ち消えになった過去がある。
- 委) 日蓮宗の人以外から見れば意味合いが持たせ辛い。
- コ) 知っている人がいるので、それだけで是とするか、知っている人が多くいるので何かしらやっていこうというのは、特に住んでいる人はどのように感じるか。
- 委) 「鴨川市は日蓮上人のふるさと」である旨の看板を立てて、全市的にアピールしていく必要があるのではないかという話を聞いた。
今のところそういったものは一つもない。
- 委) 現時点では「生誕 800 年祭」というワードしかない。
- 委) 昔は天津小湊町の話だったが、市全体の話として捉える必要あり。
- 委) 多宗が存在する中で、クローズアップするのも難しいことだと思う。
- 委) 生誕 800 年祭では多くの人が鴨川市を訪れると思われるので、イベントに対してタイトルを付けられると思う。

委) : 委員、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

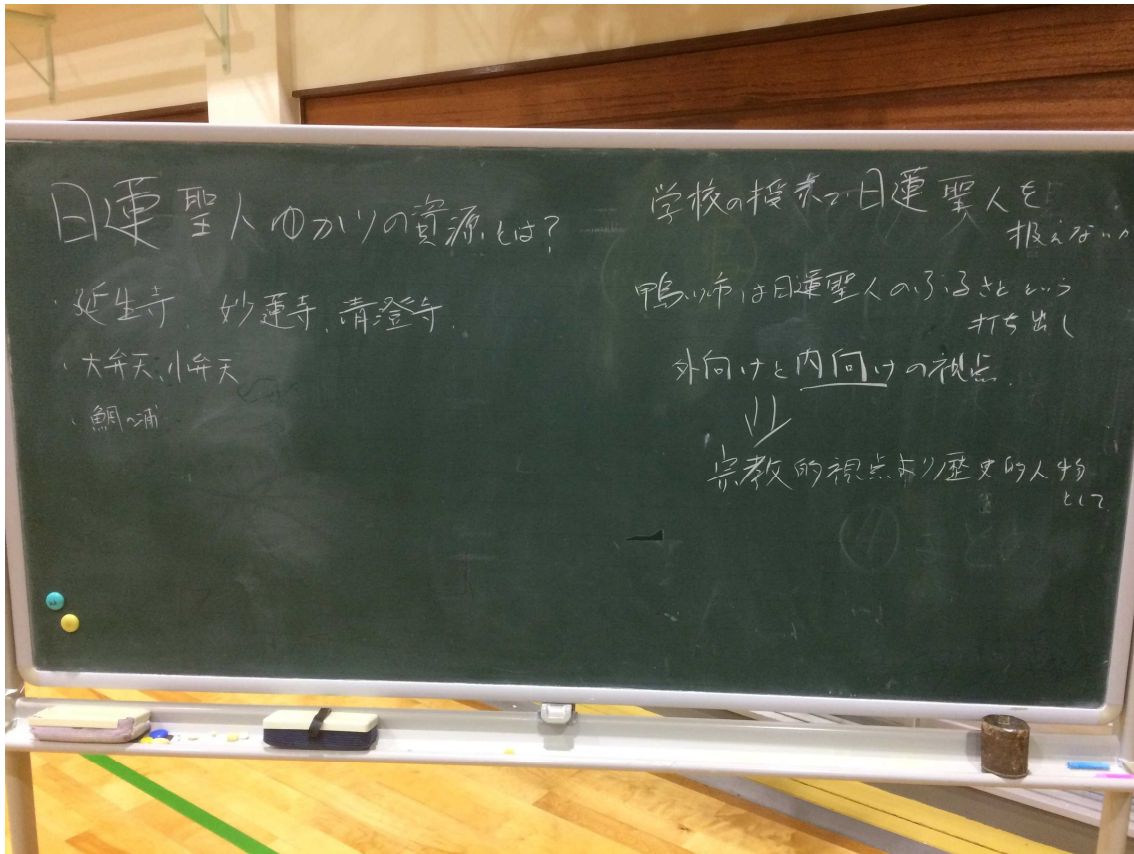
- コ) 市内の他エリアで生誕 800 年祭が行われることや日蓮上人のふるさとであることに
 関して、何か印象を受けたり、話を聞いたりするか。
- 委) 正直なところ薄いのが実情。
 そのため、合併して 10 年以上経った今も、鴨川市街に出かける際に「鴨川に行っ
 てくる」という表現をする。
- 委) 昔の考えが残っていて天津地区と小湊地区も違うのでは。
- 委) 行政がエリア（地区等）に寄り添ってくれてもいいのではないかと感じることはあ
 る。
- 委) どこかで打開していかなければならないので、全市的な取り組みは非常にいいと思
 う。
- コ) 高校生の感覚でも「鴨川行ってくるわ」になるか。
 委・高校生) なる。
- 委) 生誕 800 年祭の際には小湊エリアだけでは宿泊施設の部屋数が足りない。
 総合的に考えて、市としてイベントを打ってもいいのでは。
- コ) 大学生の 2 人はエリア区分的な考えはあるか。
 「鴨川市」の学校に進学したという認識か。
- 委) そのとおり。
- コ) 行政側としても他宗派への気遣いなどはあったか。
- 市) 観光資源として生かす際には、そういったことは考慮していなかった。
 エリア、エリアに観光資源があるので、市全体として推していく考えはなかった。
- 市) 地域の中に特筆すべき観光資源があるので、自然とエリアで考えてしまっているの
 では。
 生誕 800 年祭に限らず、市全体の資源として捉えて、市全体でプッシュしていく必
 要性があると感じている。
- コ) 過去 2 回、観光目的で小湊地区のホテルに宿泊しているが、外からの人間から見れ
 ば、鴨川市かどうかも気にしていなかった。
 外の人たちからすると、エリア区分的なものはそもそも頭にないと思われる。
- 委) 観光において重要なのは場所ではなくイベントだと感じている。
- 委) イベントは一過性なので、その後どうするかも考えなければいけない。
- コ) これまでの議論の結果、外向きの視点（市外居住者向け⇨観光客等）と中向きの視
 点（市内在住者向け）、2 つの方向性が見えてきた。
 その中で、中の人向けに魅力を打ち出すことをしてもよいと感じた。
- 委) 天津小湊地区は日蓮宗の大本山が 2 つある大事な地域である。
 お寺で宣伝したほうがいいのか。
 2 つあることをどう捉えるか。
 内向きのところをどのようにするか、担当セクションは今の時点では不明瞭だが。
- 委) お寺の視点から言えば、檀家向けになる。
 観光協会などが取り組むことがあれば全市的になるのでは。
- 委) 小湊地区の住民は誕生寺を檀家だけのものとして捉えていない。
 誕生寺とは別に自分のお寺があるが、地域のお寺として捉えている。
- 委) 日蓮上人個人（歴史的偉人）としての打ち出しであれば、宗教性も減るのではない
 か。
- 委) 逸れた話となるが、清澄寺は「きよすみでら」なのか「せいちょうじ」なのか。
 ⇒「せいちょうじ」

委) : 委員、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

- 委) 極論だが、小湊地区の発展は誕生寺・鯛の浦を軸とした観光以外ではありえないと考えている。
- 委) 誕生寺・鯛の浦以外で観光地と呼ばれている箇所はあるのか。
- 委) 天津小湊町で捉えれば、誕生寺・鯛の浦・清澄寺。
- 委) 日蓮交差点から門までの門前町魅力アップに向けた「誕生寺周辺活性化委員会」のような事業が過去にはあったが立ち消えてしまった。
- 委) 参道の店舗はどうなっている？
- 委) 少ない。
- コ) 内向きの動きが非常に重要と感じる。他地域の成功例を見ても、内向きの活動が外に繋がっていくと、いい流れになるのでは。
本日の話からすると今まではそのような流れはない。
市役所で仕事をしていてどうか。
- 市) 日蓮上人に関して言えば、宗教として捉えることはなく、偉人として捉えていた。
- コ) 個人的な意見になってしまうが、市民が魅力に感じてそれが外に滲み出るような雰囲気になってほしいと思う。
- コ) シートとアンケートの記入を願う。
次回はナビゲーターが加わり、日蓮上人の話をしていただいた上で協議を行う。
次回の希望論題、または本日の感想はあるか。
- 委) 観光で取り組む場合、何をして、どのように組み立てていくのか知りたい。
イベントも大事だとは思いますが、テーマを設定して売り込むことが大事では。
- コ) 冒頭でも出たが、ストーリーがあるというのは非常に大事。
- 委) 今は SNS でどこが当たるかわからない。
- コ) 地域の人からすると、人が沢山来るのはいいことか。
- 委) いいことと捉えている。
- 委) 天津地区も小湊地区も同じような状況であると思うが、定着には産業が必要である。
- コ) 鴨川に戻ってきた理由は？
- 委) 海外から戻ってきて日本に家がないので実家に世話になっている。
- コ) 高校生は残る・出るに関して今どう考えているか。
- 委) 働くところがあって、住むところがあれば戻ってきてもいいと思う。
- 委) 現状では仕事がない。
- 委) 4年ぶりに海外から帰ってきたときに、何も変化がなかったのでびっくりした。
(ふるさとが変わらないといういい面と何も変化がないという悪い面もあるが)
東京と田舎のスピード差、カルチャーショックで複雑な気持ちになったのを覚えている。
今回の取り組みによって新しい何かに活用していきたい。
- コ) 本日は全体の状況を共有すること、日蓮上人の個々の捉えるところを話し合った。
次回からは施設の活用についても話をしていきたいが、議論の中心は「小湊地域の活性化をする為にはどうしたらよいか」としたい。

委) : 委員、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

ホワイトボードの写真



次回の分科会に向けた準備

次回の分科会の目標

- 中心論題：小湊地域の活性化をする為にはどうしたらよいか
- その他論題：施設の活用について

次回の分科会に向け準備する資料等

-
-

備考 (その他、記録すべき事項を適宜追加)

委) : 委員、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(鴨川市) 住民協議会「第1回100人会議(第2分科会)」議事メモ

分科会	第2分科会 (海と山の優れた自然をどう生かすか(漁業のこれから))
コーディネーター	石渡 秀朗
ナビゲーター	—
説明担当者(自治体)	企画政策課主幹 大久保 孝雄、企画政策課 中嶋 太郎
日時	2018年3月17日(土) 15時35分から17時00分
場所	小湊小学校多目的室(ゆめひろば)
その他	参加者数 11名 欠席者数 1名

趣旨・概要

- 進め方の共有
 - ・自己紹介
 - ・(記入シートに沿って、) プラス&マイナスイメージの発表
 - ・海との関係性について各自発表
- 発表者の決定

総括

分科会 会長総括

➤ 特になし

コーディネーター総括

➤ 特になし

協議の流れ

協議しているテーマ① 小湊地域プラスイメージ

- 委) ・夏は海水浴場等で活気がある、ひじき狩り
- ・プラスはあまり思い浮かばないが魚はうまい
 - ・新鮮な海産物、夏の観光客による賑わい
 - ・観光施設が多い→誕生寺、鯛の浦遊覧船、県民の森など
 - ・誕生寺の強いイメージ
 - ・海や山といった自然に恵まれている
 - ・日蓮、鯛の浦の観光イメージ
 - ・暖かくて過ごしやすい、留学生が多くて外国語の勉強がしやすい
 - ・海水浴場の駐車場が無料
 - ・小湊七不思議(浜を掘ると真水が出てくる等)
 - ・海産物、充実した宿泊施設
 - ・近郊16単協でキンメのブランド化(700g以上→「釣りキンメ」)
 - ・知名度はまだまだ低いが伊豆や三浦より美味しい!

協議しているテーマ② 小湊地域マイナスイメージ

- 委) ・寒くなると観光客が少なくなり寂しい
- ・Uターンしてみても、生活に不便を感じる人が多い
 - ・道が狭く入り組んでいてわかりにくい
 - ・電車の本数が少ない
 - ・鴨川シーワールドに観光客が取られている
 - ・誕生寺に来る参拝客(観光客)は昔に比べて減っている
 - ・店が少ない→若い人が集まらない
 - ・街灯が少なく、夜出歩くのが不安

委) : 委員、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

- ・誕生寺や日蓮を全く知らなかった
→これらの観光資源を外部の若者へもっと情報発信すべき
- ・人が少ない・高齢でも青年団を続けざるを得ない
- ・高齢化が進行している、廃業する民宿等が多い
- ・観光客がごみを放置していく、台風後等の海岸漂着物に困っている（市や県が迅速に対応してくれない）→果たして海がプラスなのか？

協議しているテーマ③ 海との関係性

- 委) ・地元の魚（特にブランド化されたもの）が地元でなかなか出回らない
 ・地元の旅館やホテルも入札権を持つところが多いが、大消費地（築地）や地元（天津）の大きい魚屋さんに持っていかれてしまう
 ・子どもの頃は潜っていたが今は漁業権がない（アワビ・伊勢エビ等）
 ・釣りをする、知り合いが船を持っている（アジやワラサ等）
 ・漁業権を持つのでヒジキで稼いだ時期がある
 ・キンメを結納で送った
 ・おばあちゃんのキンメの煮付けが一番美味しい
 ・子どもの時から釣りをして回っていた
 ・漁業で海には稼がせてもらっている、操業で三宅まで行っていたこともある
 ・海との関わりはない（泳げないので海が嫌い）
 ・海の近くで旅館を営む上で、宿泊客然り、料理で提供する海産物など、海との関わりは強い
 ・旅館のニーズが変わってきている（団体から個人へ）
 ・アレルギー等、きめ細やかな要望に応じていかないとやっていけなくなる
 ・中学生でヒジキ狩りを体験する
 →古来からの地域文化を学ぶ機会として、又、社会勉強として学校側は中学生にヒジキ狩りを体験させている

《その他》

- コ) （夏に観光地として賑わうということを受けて）
この時期も道が混んでおり、観光客が多いのでは？
- 委) 花見やゴルフ客が多いが、宿泊滞在の観光客ではないと思われる。
- コ) （プラスイメージにおける「誕生寺」の頻出を受けて）
誕生寺はインスタ映えしないか？ 小湊地域でインスタ映えするところはどこか？
- 委) 誕生寺はインスタ映えしない、インスタ映えする場所は海。
- 委) 鯛の浦遊歩道からほど近い大弁天・小弁天はインスタ映えするのではないか。
- コ) 宿泊客がピークの年代はいつ頃か？ どういった観光客が多かったか？
- 委) 30年前頃、海水浴客が中心であった。
- コ) 留学生が多いという点について。
- 委) 城西国際大学の学生、また埼玉に比べて外国人が多い。
- 委) 亀田病院で留学生を雇っている。
- 市) 水産加工業に従事する外国人が多い。

ホワイトボードの写真

今回は利用なし

備考（その他、記録すべき事項を適宜追加）

- ・キンメ漁は10月から6月に行われている
- ・キンメの禁漁時期はカツオ漁やカジキ漁を行う

委) : 委員、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(鴨川市) 住民協議会「第1回100人会議(第3分科会)」議事メモ

分科会	第3分科会 (観光地としての生き残り策(小湊鐵道との連携など))
コーディネーター	石井 聡
ナビゲーター	
説明担当者(自治体)	企画政策課課長補佐 石井 宏子、総務課 早瀬 努
日時	2018年3月17日(土) 15時30分から16時50分
場所	小湊小学校ランチルーム
その他	参加者数 12名 欠席者数 名

趣旨・概要

(全体の趣旨)

- ・ 小学校の跡地利用の具体的な案を出すことが目的である。
- ・ その手法として、意見を出しやすい環境で(小人数で)、継続して、知識を高めながら意見を出す。
- ・ 観光というテーマであるが、一つの切り口なのでそれに縛られない。
- ・ 最初の3回(3~5月)では、可能な限りいろいろな意見を出す(実現可能かどうかは問題でない。)
- ・ この地区や観光についての知識や経験にとらわれずに議論したい。それが良い案に繋がる。
- ・ 一つのチームとして考えていくが、案を一つにまとめなければいけない訳ではない。

(今回の趣旨)

- ・ 自己紹介(氏名、小湊地区との関わり、参加の動機)
- ・ 発表者の選出
- ・ 観光と小湊地区について思うこと
- ・ 小湊鐵道について

総括

分科会 会長総括

➤ 特になし

コーディネーター総括

➤ 特になし

協議の流れ

協議しているテーマ① 自己紹介

協議しているテーマ② 発表者の選出

協議しているテーマ③ 観光と小湊地区について思うこと

- 委) 日本の観光地について考えると、日本にはどこにもツーリストインフォメーションがなく、オプションツアーの案内がない。タイやシンガポールに行くと、ホテルでもどこでもツーリストインフォメーションがある。これは観光の起爆剤になるのではないかと思う。家族を対象にするのであれば、オプションツアーがあるべきではないか。
- 委) 今後の議論をするうえで、観光の定義について誕生寺やホテルに来る人だけでなく、病院に来ること、仕事に来ることも含め、鴨川に来ること全てを包括していると考えて、観光を捉えていきたい。
- コ) 観光を広く捉える(来る人全てを観光と考える。)という意見が出た。観光客のデータは、入れ込み客や施設利用者数であるため、この意見を採用すると既存のデータ

委) : 委員、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

の活用はできない。観光を広く捉えることには自分も賛成である。今後、観光については、大きな枠で捉えて鴨川に来る人全てを観光客と捉えて議論したいがよろしいか。
(賛成)

- 委) 小湊はまちの規模の割にホテルが多い。昭和 30 年代頃は観光客で賑わっていて、その名残として小湊温泉号があると聞いている。
- 委) 昭和 30 年頃は日蓮の影響で団体客が多かった。もう少し経つと海水浴のお客が増えたのではないかと思う。
- 委) 温泉は後発のもので最近の話である。
- コ) 逗子市でも昭和 40 年代が最盛期で海水浴客が多かった。東京から電車で 1 時間位なのでお客が多かった。
- 委) 私は、釣りが好きでキャンプをしながら鴨川に来たことがある。埼玉は自然に面白みがない。鴨川は空気が全然違う。海辺(江見)は温暖で寒くなくて良い。最近の江見地区は少子高齢化が進んでおり、また休耕地も多い。江見小学校も廃校になった。地域全体が沈静化している。人が来るための何か産業的なものが欲しいと思う。
海を活用するというのは 1 つの方策と考える。大学(例えば海洋学部)とのタイアップとか、海洋発電とか、海の中のレアメタルの収集とか。最近では海洋汚染の問題も深刻である。
- コ) 海は地域の皆さんにとってどのようなものか。
- 委) この時期だとワカメを拾いに行く場所である。
- 委) 小湊には鯛の浦があるが、鯛の浦の鯛は食べてはいけない。
- 委) 真鯛は小湊地区において神聖なもの。キンメ鯛は食べる。鴨川のキンメは伊豆キンメとして伊豆で売られていたりする。
- 委) 栽培漁業はやらないのか。
- 委) 栽培はしていない。
- 委) 釣り船は多い。
- 委) 先程の意見が良かったので発言するが、海外(グアム等)だと色々なオプションツアーが用意されていたように思う。この地区を考えると釣りやサーフィン等に可能性を感じる。
鴨川シーワールドでも年間 90 万人の客が来るので、その方たちも含めて小湊に来てもらうという考えもある。小湊地区だけの単独の観光に捕られる必要はない。
- 委) 釣り客は結構いる。
- 委) 釣り客の民泊している人もいるのでないか。釣り人は朝早いから宿泊する場合もあると思う。
- 委) 沖縄は、国内でもツアーデスクが充実していて、ツアーメニューがたくさんあると思う。鴨川で観光を考えるには泊食分離を考えたい。
宿泊と食事を分離して考えていきたい。
- 委) 私の高校(文理開成高校)は、よくアニメやドラマの撮影場所になることがある。アニメの聖地として観光客を誘客するのは 1 つの策ではないか。
- 委) ポケモンGOで誘客するというのも聞いたことがある。
- コ) 聖地巡礼は自治体で取り組んでいるところもある。
- 委) 小湊地区は宿泊施設が充実しているが、ビジネスホテルがあった方が気軽に訪問できると思う。簡易的な宿泊場所があるのも良いと思う。

協議しているテーマ④ 小湊鉄道

- 委) JR 小湊駅周辺に小湊鉄道の土地がたくさんあり、これは奥谷方面から鉄道を走らせる計画があったから。上総中野から小湊鉄道のバスも 50 年前位までかなり走っていた。
- 委) テーマに小湊鉄道との連携と書かれている理由は何か。

委) : 委員、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

- 市) 構想日本と市との話の中で、先程の発言のような話がありテーマに記載されたもので、具体的に小湊鉄道と連携しようとか所有している土地を何とかしようというものではない。
- 委) 小湊鉄道の歴史について説明すると、いすみ鉄道が大原から上総中野まで、JR久留里線が木更津から上総亀山まで現在走っている。いすみ鉄道は、昔「木原線」と言われていて、木更津と大原の文字を取ったもの（2つの路線を繋げる計画があったから）だった。
- 小湊鉄道という名前は、小湊まで路線を走らせる計画に由来する。しかし、それが計画で終わってしまい、路線は現在、上総中野で止まっている。小湊鉄道が駅周辺等に土地を持っているのもこの計画があったから。
- 以前、天津小湊町時代にその土地を譲ってもらうような話もあったが、企業のアイデンティティを考えて断られたという経緯もあると聞いている。
- この小学校の跡地に何かの施設を整備した場合に駐車場の問題も出てくるが、その時は小湊鉄道の所有する土地を活用するといった可能性も出てくる。
- コ) 構想日本との話で小湊鉄道の話があったというのは、市原市との付き合いや小湊鉄道の認知度もあってテーマに取り上げたのではないかな。

ホワイトボードの写真



次回の分科会に向けた準備

次回の分科会の目標

- ・ 次回のテーマ「小湊地域の活性化に観光を絡めること」

次回の分科会に向け準備する資料等

- ・ 小学校の活用事例（保田小のデータ（経費、地元との関わり、運営主体等）
- ・ 鴨川市内の遊休施設の状況の資料（現況、一覧、活用方針）

備考（その他、記録すべき事項を適宜追加）

- コ) ホワイトボードがあるとよい。たくさんあると良い。
- 次回のテーマが「小湊地域の活性化に観光を絡めること」であるので、そのような視点でまちを歩いていただいても良い。次回、気づいた点をお話ししてもらいたい。

委) : 委員、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(鴨川市) 住民協議会「第1回100人会議(第4分科会)」議事メモ

分科会	第4分科会 (少子高齢化に対応した地域をどう作るか)
コーディネーター	山根 晃
ナビゲーター	
説明担当者(自治体)	企画政策課地域戦略係長 滝口 俊孝、観光課 岡野拓未
日時	2018年3月17日(土) 15時30分から17時15分
場所	小湊小学校音楽室
その他	参加者数 12名 欠席者数 0名

趣旨・概要

議論のテーマ「少子高齢化に対応した地域をどう作るか」
今回は初回のため、自己紹介が主であった。

総括

分科会 会長総括

➤

コーディネーター総括

- 当地域では、先祖代々この地域を選定して暮らしてきたこと、学校や子育てのみならず、祭りごとを含めて地域一体となって実施していることを理解した。
- 昔とは違いインフラの整備が進み、物流が非常に進歩した。今後も進んでいくだろうが、中山間地域では難しくなるかもしれない。そうした時にどういった町が必要になってくるのかを考えなくてはならない。
- ボランティアという形だけではなくて、もう少し積極的な形での関わり、日本でいうボランティアとは無償で時間が空いたら行っている形だが、そうではなく、もう少し主体的に関われる人がいてもいい。

協議の流れ

協議しているテーマ① 子供(若者)が減少傾向にある原因について

- 委) 働く場所の少なさが原因である。跡取りとして働く場所もないから結果的に働く場を求めて出てしまっている。
- コ) 確かに家業があれば戻って来られるかもしれない。小湊から働ける距離というのは?
- 委) 外房地域は茂原くらいまで。内房は君津、木更津くらいまで。
- 委) 基本的に大学がないから一旦鴨川市から離れるしかない。戻って来られる選択肢を提供しなくてはいけない。周りを見ると教員、消防士は戻ってきている。しかし、看護師は大学病院の看護師等として働けるし、必ずしも戻ってきていない。亀田病院はハローワークや県内の大学にしか人員の募集をかけていない。それではいけないと思う。亀田総合病院であれば知名度もあるのだから、人が大勢いる東京の大学に募集をかけるべき。
- 委) Iターン、Uターンしようと思ってくれるような地域づくりをしなければならない。若者に“大事なふるさと”と思ってもらえるように、残っている人たちが頑張らなくてはならない。お年寄りも多くいるので、その人たちが自分たちだけで楽しむのではなく、若者が住んでいなくても、都会から帰ってきてほっこりするような地域づくりをしなくてはいけないと思う。学童はどうなるのか?
- 委) 鴨川市の学童は非常に遅れていて、現在保護者が運営している。OURSはOURSの職員が運営。平成30年度からは社会福祉協議会が運営することとなっている。当地域

委) : 委員、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

の学童は天津の学童に行ってもいいし、小湊の学童が残せれば残してもいいと言われている。

私の子供が保育園の年長の頃にこども園となり、従来、幼稚園は14時までの預かりであったが、延長して見てもらえるようになった。しかし、小学生以上は見てもらうことができないため、親が働けないという意見があった。そこで学童教室を立ち上げなくてはいけないと思い8年前に立ち上げた。学童がないことが一つの要因で小湊を離れてしまう人もいた。つまり、人生の節目に小湊に残れる選択肢がないと離れてしまうことがわかった。

また、新しい家に住み替えるときに、鴨川の方が便利なので出て行ってしまうということも理解してきた。空いている土地を利用したり、格安で土地を提供してもらえたりすれば、家を建てて住む人もいるのではと思う。

- 委) 親御さんにはできないこと、お年寄りだからできるようなこともあると思うので、お年寄りを活用できるような地域になってほしいと思う。
- コ) 多世代で交流できるようなところも昔はあったのかもしれない。
この狭いエリアの中で、ここに戻ってくる人、お寺の人、商売している人等がうまく絡まる仕掛けというものが作れればと思う。学童の話が解決していないということも課題ではある。また、幼稚園と小学校の連携の問題もこの先出てくるとは思う。
亀田病院があるということで、比較的女性が多く働いているということもあり、働く場と生活、子育てができる場のバランスをどう考えていくかも大事になってくる。それほど東京から遠くないという強みもある。
市が説明したように短いスパンで見れば、人口は減っていくことは間違いなく、人口が増加することは難しいことである。
- 委) 人口が増えないことを念頭に置いて、話していかなければならない。人口が増えないからこそ小湊のいいところを見つけていきたい。一般論だけでやっても話は進まない。
- コ) 持続していくために、どうするかを考えていく。この地域から全く子供がいなくなるわけではないので、何を伝えていきたいのか、小湊とはどういった地域なのかを子供に伝えていく必要性はある。そのために、跡地に何もいらないのであればなくてもいいのかもしれない。
- 委) 若い子がいるので質問するが、これから結婚して子供を育てていく若者にとって、統合して地元で学校がない地域に魅力を感じるか。何歳くらいに子供を産みたいか。
- 委) 26、27、28くらい。
- 委) その時に働いていきたいか。それとも育児に専念していきたいか。
- 委) 働いていたい。
- 委) 働きながら子育てするうえで、何が欲しいか。
- 委) 家の近くに保育園や幼稚園がほしい。
- 委) 何キロ以内にほしいか。というのも OURS の近くにアパートがあるのだが、若い人は保育所の近くに住みたい傾向がある。加えて経験上、職場付近の保育所はいっぱいになると思っている。
- コ) 子供の頃どういったところに住んでいたか。
- 委) さいたま市に住んでいて、家の近くに公園、駅、スーパーがあった。2駅先には祖母の家があった。
- コ) さいたま市で働き、暮らしを支えている人がいるからその生活ができています。一方で支えている人が少ないとその生活はできません。要するに人口が多い亀田病院の近くは、そういったエリアになっているのかもしれない。
- 委) OURS の理事長は、子供の数は少ないかもしれないが、少しだけ預かってほしいと思う親はたくさんいるはずと考えた。だから、そういった施設を作れば受け皿になれる、と言い今の施設を作った。その時に、高齢者がたくさんいるからボランティアで働いてもらおうとしたが失敗に終わった。なぜなら、ボランティアで責任感がなく、高齢

委) : 委員、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

のため体調を崩したら辞めてしまう。このことから多世代を混ぜないといけないこと、一定の給料を発生させなくてはいけないこと等を学んだ。

- 委) 私も学童のお願いに高齢者の所へ行ったが「誰が責任を取るのか」と言われ引き受けてもらえなかった。ボランティアをお願いするときは、何かあった時に責任をとれる責任者や明確な報酬を設定しなくてはいけないと感じた。現役のお年寄りと子供の多世代交流というが、しっかりとした母体と受け皿がなくては話が進まないと思う。
- コ) みなさんは高齢になった時に、同じように責任が取れないから預かれないといった考えになりますか。
- 委) 私の母は72歳だが暇だったら預かれると言っている。土日に少し外出するから預かってもらえる場所、買い物に出るから預かってもらえる場所がないとこの地域に人は住めないと思う。
- 委) ここを新たな産業の場所にする必要はないと考える。子供連れの人が住みやすい部屋を提供するとか、高齢者を介護しやすいバリアフリーの施設にする等でいいのではないか。
- 委) 旧鴨川中学校が統合されて、亀田医療大学になった時に、学び舎がなくなって最初は悲しい気持であったが、学園祭に行くと、地域のためになっていると感じられた。この跡地もそのように感じられるような施設になってほしい。今後は年輩の方の意見を聞きたい。

ホワイトボードの写真

今回は利用なし。

次回の分科会に向けた準備

次回の分科会の目標

- 一年間という長丁場になるが、鴨川、小湊の地域を良くしていきたいと思うので、積極的な関わりをお願いしたい。

次回の分科会に向け準備する資料等

- 特になし。

備考 (その他、記録すべき事項を適宜追加)

- ・第4回以降の会議の日程がわかったら早めに周知してほしい。

委) : 委員、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

第1回100人会議記入シート集計一覧（平成30年3月17日実施）

1 第1分科会（テーマ①：日蓮上人ゆかりの地域資源をどう位置づけるか）

プラスイメージ	マイナスイメージ
観光の拠点としての地域資源が多い	市民の関心が薄い
故郷感がある	外から人が来ない・働く場所がない
日蓮上人・お寺・生活の一体感	日蓮上人についての話し手が少ない
歴史的背景がわかるとおもしろい	保守的で、変化が少ない
数々の伝説が残っている	情報発信の必要性
自然	不便・シャッター街
医療の町	少子高齢化・過疎化
ベッドタウン	華がない

2 第2分科会（テーマ②：海と山の優れた自然をどう生かすか（漁業のこれから））

プラスイメージ	マイナスイメージ
美しい自然環境（海・山）	電車の本数が少なく、不便
海水浴場・無料駐車場	海のごみ問題。観光客のマナーが悪い
新鮮な海産物	少子高齢化
温暖な気候で過ごしやすい	外部への情報発信が少ない
宿泊施設が多い	商業施設・遊ぶ場所が少ない
誕生寺などの観光施設が多い	道路が狭く、入り組んでいる
鯛の浦	街灯が少なく、安心して生活できない
他では行われていない文化がある	観光客の減少
おいしい鯛せんべい	若い人が来ない
留学生が多く、外国人と関わる機会が多い	民宿の廃業
観光客が夏期に多い	
ひじき刈り	
県民の森	

3 第3分科会（テーマ③：観光地としての生き残り策（小湊鉄道との連携など））

プラスイメージ	マイナスイメージ
海がきれい・釣り・鮮魚	季節による観光客数のばらつき
観光資源、宿泊施設が多い	シーワールドのついで観光
観光地らしい町並みとコンパクトな地形	ビーチ整備が不十分
温暖な気候でのんびりとした雰囲気	商業施設・遊ぶ場所が少ない
駅に近く立地条件が良い	マンネリ化・目新しさが無い

活用できる空家が多い	6次産業化が進んでいない
ドラマやアニメなどの舞台	集客力・情報発信力が弱い
既に多くの観光客が来ている	ホテルによる客の囲い込み
自然の中で観光客が遊んでいる	泊食分離志向の乏しい宿泊施設
観光情報が溢れている	地元住民の意識の低さ
イベント化で集客	人手不足
都市部への意識的距離の近さ	皆で行うイベントが少ない
花火大会	暗い
移住者の受け入れ（鴨川、長狭）	観光の魅力が薄い
	まとまりがない（長狭、安房地域）
	鴨川有料での亀山湖との分断
	一般的に有名なものが少ない
	都市から遠く、行きにくい

4 第4分科会（テーマ④：少子高齢化に対応した地域をどう作るか）

プラスイメージ	マイナスイメージ
医療・福祉の充実	子どもが少ない
子どもの見守りの充実	定住人口の減少
高齢者の増加	地域の衰退
気候が良く、穏やかな町のイメージ	耕作放棄地・空家が多い
地域愛	広がりが少ない
伝統的な遺産	交通の便が悪く、買い物も不便
少子化、少数精鋭	若い世代の活性力が足りない
落ちついている	固定概念が強い
春は忙しい	社会資源が少ない
各種サロン、ラジオ体操等の活動が活発	働く場所が少ない
生まれた地に帰ってくる地域を作る	子育て環境があまりよくない
成熟した社会	子供の活動の場が少ない
	独居老人が多い
	子どもの見守りの大変さ

5 他の分科会のテーマについて感じていること・考えていること

●テーマ①について

- ・ インバウンドや近年の社寺への観光客の増加から考えると、誕生寺をはじめとする社寺の活用はなされるべきだと思う。そのためには、社寺の協力が不可欠であるとともに、訴求力の高いストーリーづくりが必要である。
- ・ 誕生寺は多客期の駐車場対応が十分でないため、観光客にマイナスイメージを持たれるのではないか。

●テーマ②について

- ・ 湾で穏やかな海の活用ができないか。通年来る釣り人を取り込めないか。
- ・ 海を利用した観光方法
- ・ 漁業は大変だと思う。
- ・ 魚の養殖（近海、屋内）
- ・ 新たな門前町づくりを進めてはどうか。地方創生のカギは第一次産業である。鴨川市には漁業組合が統一されていないという問題がある。漁業関係者が積極的にまちづくりに携われる企画・方策が必要はないか。

●テーマ③について

- ・ 駐車場の確保
- ・ 観光はイベントの開催を増やす手法ではなく、売り込むテーマを1つに絞った方がいいのではないか。
- ・ 観光地としての意識改革の提案や意見を聞いてみたい。
- ・ 観光目的で小湊に来ることがない。

●テーマ④について

- ・ コミュニティの場や機会を増やすと高齢者も活性するのでは。
- ・ 教育（進学）問題も含めて検討してほしい。
- ・ スポーツやサブカルチャーなど、これまでと視点を変えた取組を通じて若者を再び呼び寄せる事ができるのではないか。

●その他

- ・ 「医療の市」のイメージを大事にしたい。
- ・ 人口流出を止めるための方策も検討してほしい。
- ・ 地域の人も使えるような施設
- ・ 鴨川市全体の中の1つとして、小湊地区の活性化を考えていきたい。
- ・ たくさんの意見を聞くことができ勉強になったが、タダ人が来ればいいのか…観光とは何なのか…とても難しかった。
- ・ 移住者からすると、対人関係の馴染み合いができていないため、地域全体への思い入れを作るのが難しい。特有の市民意識（ナワバリ意識）が強く、もう少し子どもの頃から他を受け入れる寛容な地域になって欲しい。
- ・ 全体として観光利用としての方向に偏りが出ないか心配になる。小湊以外の参加者は小湊を歩いたことがないようなため、フィールドワークが必須だと考える。また、地域住民の意見が分科会で反映されるか疑問で、小湊地域自治組織の意見を多く入れていかないと、結果として地元住民との合意形成が図られないのではないか。個人、世帯、集落としての意見を拾い、まとめていかなければならない。全員が納得するまで話し合う文化こそが地方自治の礎である。

鴨川市 100 人会議参加者アンケート集計表

回答数 46 人

1 第1回の100人会議に参加してみていかがでしたか。		件数	割合
1	とても良かった	10	21.7%
2	良かった	31	67.4%
3	あまり良くなかった	0	0.0%
4	まったく良くなかった	0	0.0%
5	どちらともいえない	4	8.7%
6	未回答	1	2.2%
	合計	46	

2 お住まいはどちらですか。		件数	割合
1	小湊地域	23	50.0%
2	小湊地域以外	23	50.0%
3	未回答	0	0.0%
	合計	46	

3 小湊地域にかかわる機会として、どのようなことがありますか。(複数選択可)		件数	割合 (件数/回収枚数)
1	居住している	22	48.9%
2	介護のために通っている	1	2.2%
3	仕事をしている	13	28.9%
4	買い物に行く	2	4.4%
5	趣味・娯楽(釣り、温泉など)	5	11.1%
6	スポーツをする	1	2.2%
7	小湊地域に住む知人宅への訪問	2	4.4%
8	市外から知人が来た時に案内する	7	15.6%
9	かかわる機会はない	6	13.3%
10	その他	5	11.1%
11	未回答	1	2.2%

今日参加して、小湊地域について新たな発見や気づきはありましたか。ある場合はどのようなことですか。 ※自由記載欄下部		件数	割合
1	ある	35	76.1%
2	ない	5	10.9%
3	未回答	6	13.0%
	合計	46	

小湊地域の発展のためには、次のうちどれに重点を置くべきだと思いますか。いずれか1つにチェックをしてください。		件数	割合
1	日蓮上人ゆかりの地域資源	9	15.5%
2	漁業をはじめとする自然	8	13.8%
3	観光	24	41.4%
4	少子高齢化への対応	14	24.1%
5	未回答	3	5.2%
	合計	58	

【設問4 自由記載欄（主な意見）】

<第1分科会>

- ・日蓮聖人について大弁天・小弁天の近くから真水が湧いていたことを聞いた。
- ・日蓮上人について知り、歴史背景が分かれば面白いのだと知り、小湊地域についてもっと知りたいと思った。
- ・一昔前と比較し、だいぶすたれている。

<第2分科会>

- ・鴨川で生活しているため、小湊地域について観光地など詳しい事は知らなかった。
- ・漁業と住民のつながりがある（学生のヒジキ狩り等）。
- ・観光地はあるが観光客は減っている。海がプラスの面にもマイナスの面も意味すること。ひじきなど、他の地域ではもうやっていないくても、小湊は文化づいている。外部への情報発信が少なく、小湊の歴史や観光地を知らない。

<第3分科会>

- ・小湊の自然豊かさを改めて知りました。
- ・小湊鐵道とのかかわりなど、地元の方から歴史の一端を聞いて新鮮でした。

<第4分科会>

- ・鴨川市の中でも小湊地区は案外詳しく知られていないと思った。ただ話を聞いてみると同様な着眼点、アイディア、方向性をもっている人達も多い様に思った。
- ・小湊地区と鴨川の中心だとまた違った問題もある。子供が本当に少ないと思った。海もきれいで温かい環境ではある。